



令和5年度 鉄の歴史村の講演会

抄録集

主 催

公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

共 催

雲南市・雲南市教育委員会

後 援

鉄の道文化圏推進協議会、雲南市たたらプロジェクト会議、
吉田地区振興協議会、一般社団法人日本鉄鋼協会



(公財)
鉄の歴史村
地 域 振 興 事 業 団

ごあいさつ

(公財)鉄の歴史村地域振興事業団
代表理事 陰山 義広

当財団では、平成 29 (2017) 年度から菅谷たたら山内の総合文化調査・研究を継続してまいりましたが、本日の講演会では令和 4 (2022) 年度に刊行いたしました最新の調査報告書に基づき、新たな「菅谷たたら山内像」を報告するものでございます。

本日は、その報告書の執筆者であります梶谷光弘氏、新野邊幸市氏、高橋誠二氏の 3 名によりご講演をいただきますが、本日の企画が、今後の菅谷たたら山内への一層の関心につながることを強く願うものでございます。

こうした鉄に関する伝統文化の継承が、地域の振興に大きく貢献することを祈念致しますと共に、共催、後援いただきます先々に対しまして、衷心より感謝申し上げまして、開会のご挨拶といたします。

開催の趣旨

菅谷たたら山内の総合的な調査による成果物は、昭和 43 (1968) 年 3 月刊行の『菅谷鑑』に始まります。歴史学・民俗学・建築学の研究者が中心となり、住民の聞き取り調査、史料調査、建造物や製鉄道具などの調査をとおして、菅谷たたら山内に関する基礎資料が集成されました。その後、昭和 61 (1986) 年 11 月に開催した第 1 回シンポジウム「人間と鉄」以来、多くの研究者の方々のお力添えにより、様々な切り口による調査研究を継続してきた次第です。今回の講演会は、『菅谷たたら山内総合文化調査報告書 4』にご寄稿いただきました菅谷たたら山の信仰、吉田の町の医療史、近代たたら操業の生成品の科学調査に関する論文について、3 名の研究者の方からご発表いただきます。

スケジュール

令和 5 年 10 月 14 日 (土)

開 会・・・・・・・・・・10:00～

代表理事 開会のあいさつ

司会者 開催趣旨説明

第 1 講・・・・・・・・・・10:15～

雲南市教育委員会文化財課 主幹 高橋誠二氏

「菅谷たたら山内「山内祠」の奉納品について」

第 2 講・・・・・・・・・・10:50～

元公益財団法人いづも財団 事務局次長 梶谷光弘氏

「在村医のオランダ医学修得について」

第 3 講・・・・・・・・・・11:25～

松江工業高等専門学校機械工学科 教授 新野邊幸市氏

「近代たたら操業で得られた鋳塊の組織とその観察」

司会者 講演会のまとめ、閉会のあいさつ

終 了・・・・・・・・・・12:05

【第1講】

菅谷たたら山内「山内祠」の奉納品について



雲南市教育委員会 文化財課
主幹 高橋 誠二 氏

菅谷たたら山内には、「金屋子社」のほかに「天王社」や「金比羅社」、「愛宕社」、「秋葉社」、「元山社」が祀られている。これらの神社は秋葉社前にある「拝殿」とともに「山内祠」と呼ばれ、国指定の重要有形民俗文化財になっている。

山内祠に関する調査は、平成7（1995）年に「鉄の道文化圏推進協議会」が実施し、その成果は平成16（2004）年刊行の『金屋子神信仰の基礎的研究』に掲載されている。しかし、同書には概要説明しかなく、詳細な報告はない。

そこで、今回、山内祠の「奉納品の詳細記録」や「劣化進度」などを確認するため、改めて調査したところ、いくつかの点において、前回調査時と大きく異なることがわかった。

まず、1つ目が「各社の奉納品が大きく入れ替わっていた」こと、2つ目が「前回報告にはない奉納品が祀られていた」こと。そして、3つ目が「想定よりも鉄製奉納品の劣化が進んでいた」ことである。

本報告会では、これら3点の解説と、菅谷たたら山内最後の村下である「堀江要四郎氏」が祀っていた金屋子神のご神体についても紹介する。



写真1 鑄鉄製神像2（秋葉社・金比羅社・愛宕社）



写真2 鑄鉄製鳥居（秋葉社・金比羅社・愛宕社）

【第2講】



在村医のオランダ医学修得について

—松江藩飯石郡吉田村の常松謙斎（6代）を事例として—

元 公益財団法人 いづも財団
事務局次長 梶谷 光弘 氏

令和2（2020）年、常松眞里子氏から鉄の歴史博物館へ大量の資料が寄託された。そのなかに江戸時代末期から明治時代初期にかけて活躍した6代常松謙斎（1824～77年）に関わる資料が20数点ほど見つかった。そこで、彼の医学修業に焦点をあて論究した。

謙斎は、本格的に医学を学ぶため、吉田村を出て、松江藩の漢医学校「存濟館」で中国医学を学んだ。その後、3年間の予定で伯耆国日野郡二部の足羽家で学んでいる時、出雲国神門郡の西山砂保に学んで帰郷した足羽良斎と出会い、オランダ医学の必要性を自覚した。砂保は、華岡青洲とシーボルトの門人だった。そのため、謙斎は、新たに5年間の延長を希望して京都の小石家「究理堂」へ入門し、杉田玄白らに学んだ小石元瑞から最新の「和蘭医理」を修得した。こうした彼の医学修業は「何とかして患者の病を治したい」という思いからで、松江城下での修業中に心の中で芽生えた人体の構造への関心が一貫していた。

帰国した謙斎は、藩から「郡中西洋医学世話役」などの役職を命じられたり種痘を実施したりし、医師のリーダーとして活躍した。

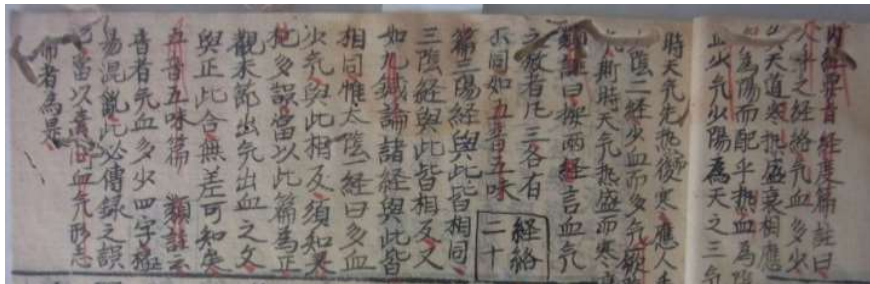


写真1 松江藩の「存濟館」での修業中に書入れされた『重廣補註黄帝内経素問』

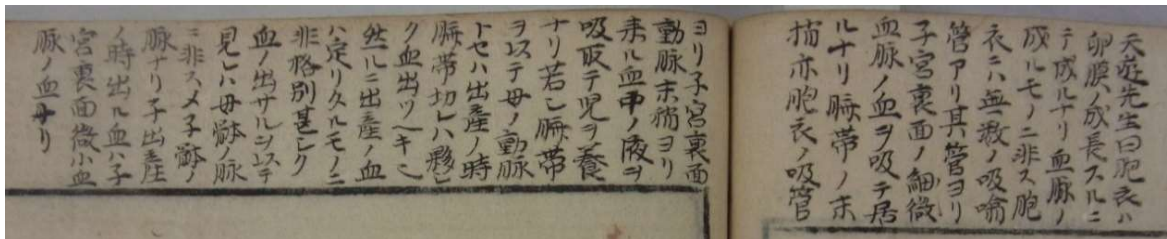


写真2 京都の小石家での修業中に書入れされた『医範提綱』

【第3講】



近代たたら操業で得られた鉬塊の組織とその観察

松江工業高等専門学校 機械工学科
教授 新野邊 幸市 氏

公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団では、たたら製鉄の歴史遺産を後世に伝承することを事業の目的とし、その一環として「近代たたら操業」と称するたたら操業を実施している。その歴史は古く、前組織である財団法人鉄の歴史村地域振興事業団が昭和 63 (1988) 年に第 1 回目の操業を開始し、平成から令和に至るまで操業が引き継がれるとともに、多数の共同研究生・実習生が参加している。

近代たたら操業では鉄塊である鉬が生産されるが、その特徴や性質はあまり明らかにされていない。そこで、講演者は過去 6 回分の近代たたら操業で得られた鉬塊に対して、光学顕微鏡や走査型電子顕微鏡を用いて組織観察を行った。

本講演では鉄鋼材料の組織の見方を踏まえて、近代たたら操業で得られた鉬塊の特徴を解説するとともに、ノロと呼ばれる鉄滓の組織も紹介する。

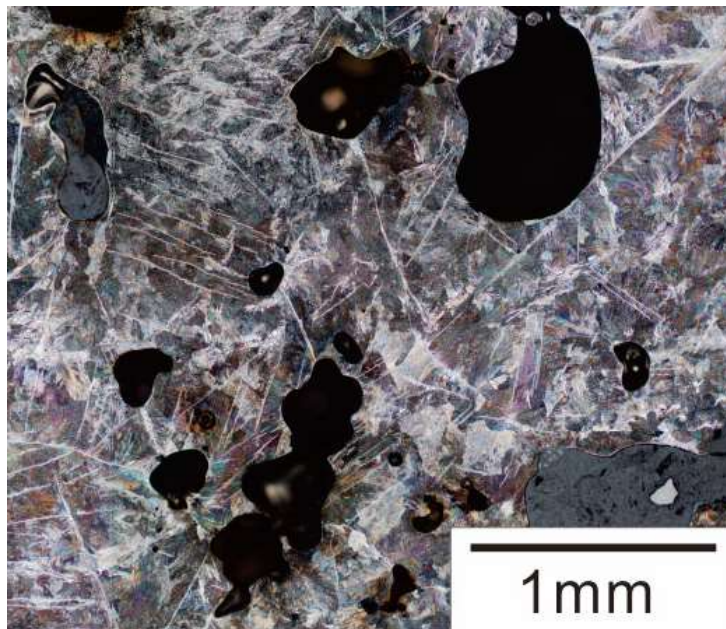


写真 1 近代たたら操業で得られた鉬の光学顕微鏡像

素地となる茶褐色のパーライトと白色で針状の形態からなるセメントait
から構成されている

『菅谷たたら山内総合文化調査報告書 4』

◆掲載一覧

- | | | |
|-------|--|-------|
| 論 | 文：明治中・後期における田部家生産鉄の商標について | 鳥谷 智文 |
| 論 | 文：在村医のオランダ医学修得について
一松江藩飯石郡吉田村の常松謙斎（6代）を事例として一 | 梶谷 光弘 |
| 資料紹介： | 菅谷鉦の製鉄用具 2 | 角田 徳幸 |
| 資料紹介： | 菅谷たたら山内「山内祠」の奉納品について | 高橋 誠二 |
| 技術報告： | 近代たたら操業で得られた鋤塊の組織観察 | 新野邊幸市 |



令和 5 年度 鉄の歴史村の講演会 抄録集
発行：令和 5 年 10 月 14 日
編集：公益財団法人 鉄の歴史村地域振興事業団
〒690-2801 島根県雲南市吉田町吉田 892 番地 1
TEL：0854-74-0311 FAX：0854-74-0600
<http://www.tetsunorekishimura.or.jp/>